

兼山落城佐々木秀經在城内居行なり

一 兼山鮭延と云ふのは山形より二十里北に當りて領主は
兼山に在城と云ふ天皇九代の後胤佐々木源三秀
義の曾孫佐々木四郎高綱の末孫佐々木典勝秀經
と云ふ親生年十六歳の勇力士なり其父玉伴北武士義
光の下知に随ふと云ふも秀經未だ若年と云ふも其下
知に随ふと云ふは其父義光公使者を以て山形へ出仕せし
由依りて其父秀經大に怒り我が佐々木の家も玉孫に
て姓系圖も當るよし殊に伐りての弓箭の業もあり今義
光の威勢強大と云ふと云ふ系圖を捨て降参と思ひしに

と云ふの如かりし其使者歸りて始終を申し上げ義光公
召延は時日を移さず押寄せしを其勢一千余騎
時天正十二年丙戌六月十日山形をお立鮭延は其向
と兼山近邊に在家を放火と云ふ野陣に羽音未明に押
寄せし義光近所の山に登り城の旗を見おひ西北は
鮭川と云ふ大川城を引廻し南に深田とて赤平尾離れ
東向の山城あり平尾城を掘り却り逆茂木三平に引
寄せ振廻し川中より乱杭お延を流しおけ櫓々を徹
し其處を待居り義光公見え玉くあふことくし其要
害如何成るも鮭延も数日を經し其落城せしと